

海陸総合調査の新威力

海底撮影装置のテスト

海底の地質調査の方法には種々あるが 直接試料を採取しないで 海底堆積物あるいは 海底基盤岩の様子を知る方法として 海底重力探査・海底地震探査・海底写真・水中テレビ・特殊潜水球・特殊潜水艇・音響測深器などが知られているが 地質調査所では現在実施中の北九州島原半島周辺の海陸地帯の総合調査に 海底写真による調査も併用することになり そのテストを海上保安庁

水路部の協力を得て10月23日に東京湾内で実施した。

この撮影装置はカメラ（キヤノンVTデラックス）を金属鋳物製の水密ケース（直径310×300mm）に入れて船の上から遠隔制御によりシャッター・ストロボフラッシュおよびフィルムの捲上げを行う仕組みになっている。

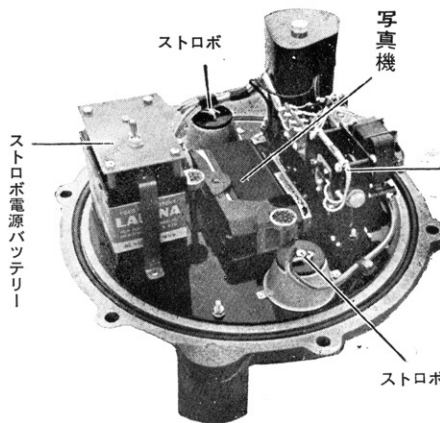
性能は12気圧の水密設計によって 水深100mまでの撮影が可能で また撮影画面は1.5m²で羅針盤も同時に撮影されるから 画面の方位も知る事ができる。

なお このケースにはステンレス製の魚型潮流減圧カバーおよび1.5mの3脚がとりつけられ潮流の影響を少なくし またフロートとバラストによって機体が海底に安定するようになっている。 (燃料部 石炭課)

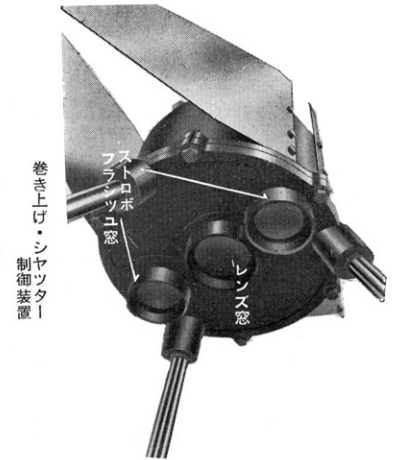
魚型潮流減圧カバー



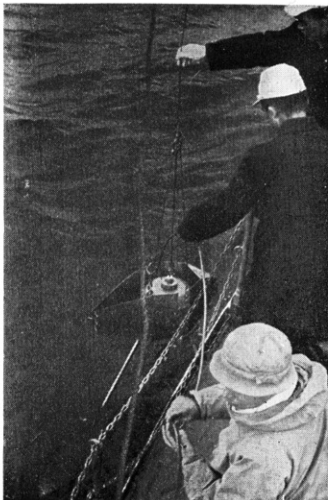
海底撮影装置



水密ケースの内部



ケースの下部



撮影機を水中へ降ろす



船上で遠隔制御装置(電気制御盤)で操作中